

# ドイツ文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学 者 読替先授業科目
ドイツ語学基礎講読Ⅰ	ドイツ語スキルアップ	2	NARROG HEIKO	3	前期 火曜日 1講時	
ドイツ語学基礎講読Ⅱ	ドイツ語スキルアップ	2	NARROG HEIKO	4	後期 火曜日 1講時	
ドイツ文学各論Ⅰ	ドイツ(語)文化圏としての 中欧の文化と歴史 (13)	2	佐藤 雪野	5	前期 火曜日 5講時	
ドイツ文学各論Ⅱ	ドイツ(語)文化圏としての 中欧の文化と歴史 (14)	2	佐藤 雪野	6	後期 火曜日 5講時	
ドイツ文学各論Ⅲ	ルーマニアのユダヤ系 詩人たちによるホロコース トの詩的表象	2	藤田 恭子	5	前期 金曜日 3講時	
ドイツ文学各論Ⅳ	ドイツの散文作品を読 む	2	藤田 恭子	6	後期 金曜日 3講時	
ドイツ語学各論	ドイツ語圏映画の世界	2	NARROG HEIKO	5	前期 木曜日 3講時	
ドイツ語学各論	ドイツ語圏映画と日本	2	NARROG HEIKO	6	後期 木曜日 3講時	
ドイツ語学各論	カフカを読む	2	森本 浩一	5	前期 金曜日 4講時	
ドイツ語学各論	カフカを読む	2	森本 浩一	6	後期 金曜日 4講時	
ドイツ語学概論Ⅰ	中級ドイツ文法	2	嶋崎 啓	3	前期 月曜日 2講時	
ドイツ文学概論Ⅰ	ドイツ文学史	2	嶋崎 啓	3	前期 金曜日 3講時	
ドイツ文学演習Ⅲ	多読によるドイツ語能 力の獲得	2	菊池 克己	5	前期 火曜日 4講時	
ドイツ文学演習Ⅳ	現代ドイツ児童文学に 描かれた錬金術と貨幣 論	2	川村 和宏	集中(5)	集中講義	
ドイツ語学演習Ⅲ	ドイツ語学演習	2	NARROG HEIKO	5	前期 水曜日 3講時	
ドイツ語学演習Ⅳ	ドイツ語学演習	2	NARROG HEIKO	6	後期 水曜日 3講時	
ドイツ語学概論Ⅱ	中級ドイツ文法	2	嶋崎 啓	4	後期 月曜日 2講時	
ドイツ文学概論Ⅱ	ドイツ文学史	2	嶋崎 啓	4	後期 金曜日 3講時	
ドイツ文学演習Ⅰ	中世ドイツ文学	2	嶋崎 啓	5	前期 月曜日 4講時	
ドイツ文学演習Ⅱ	中世ドイツ文学	2	嶋崎 啓	6	後期 月曜日 4講時	

科目名：ドイツ語学基礎講読 I / German Linguistics (Introductory Reading) I

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB32102, 科目ナンバリング：LHM-LIT221J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語スキルアップ

2. Course Title (授業題目)：

3. 授業の目的と概要：全学教育で身についたドイツ語能力を安定させ、発展させる。  
ドイツ語圏文化と習慣に触れ、テーマに沿って語彙を増やせ文章の理解力や表現力を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：

5. 学修の到達目標：A2 レベル程度のドイツ語力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業説明

受講者のドイツ語能力確認

2. Im Restaurant I

3. Im Restaurant II

4. Im Restaurant III

5. Im Hotel I

6. Im Hotel II

7. Im Hotel III

8. In der Stadt I

9. In der Stadt II

10. In der Stadt III

11. Reise und Verkehr I

12. Reise und Verkehr II

13. Reise und Verkehr III

14. Wetter I

15. Wetter II, 授業到達目標確認

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。クラスコードはシラバス入力の時時点では未定で、学期初めに決まります。そのとき Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

8. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題。最終回試験。

9. 教科書および参考書：

10. 授業時間外学習：

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。

もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：ドイツ語学基礎講読Ⅱ／ German Linguistics (Introductory Reading)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB42103, 科目ナンバリング：LHM-LIT220J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語スキルアップ
2. Course Title (授業題目)：Improving German Language Skills
3. 授業の目的と概要：全学教育で身についたドイツ語能力を安定させ、発展させる。  
ドイツ語圏文化と習慣に触れ、テーマに沿って語彙を増やせ文章の理解力や表現力を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Stabilize and expand on the German language proficiency acquired during the first year of general education.  
Encounter language and culture in German-speaking countries, add vocabulary, improve reading ability and ability of self-expression.
5. 学修の到達目標：A2 レベル程度のドイツ語力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquire German language skills at the A2~B1 level of the Common European Framework of Reference for Languages.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. 授業説明  
受講者のドイツ語能力確認
  2. Wetter II
  3. Wetter III
  4. Gesundheit und Körperpflege I
  5. Gesundheit und Körperpflege II
  6. Gesundheit und Körperpflege III
  7. Geschenke und Einladungen I
  8. Geschenke und Einladungen II
  9. Geschenke und Einladungen III
  10. Lebenslauf und Schulsystem I
  11. Lebenslauf und Schulsystem II
  12. Lebenslauf und Schulsystem III
  13. Müll und Umwelt I
  14. Müll und Umwelt II
  15. 授業到達目標確認

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードはシラバス入力の時時点では未定で、学期初めに決まります。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。
8. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題。最終回試験。
9. 教科書および参考書：

佐藤修子他著. Szenen 2. 三修社
10. 授業時間外学習：毎回の宿題
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。  
もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：ドイツ文学各論 I / German Literature (Special Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野

コード：LB52502, 科目ナンバリング：LHM-LIT306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏としての中欧の文化と歴史 (13)

2. Course Title (授業題目)：Culture and History of Central Europe as a German Cultural Sphere (13)

3. 授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。講義のほか、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides students knowledge of history and culture of German speaking area, especially outside of today's Germany.

For this purpose we will discuss on multi-cultural Prague, also as a German cultural sphere.

Besides lectures we will read a German text in order to improve the students' ability of German language.

5. 学修の到達目標：1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students will understand history and culture of German speaking area.

2. Students will develop skills to read German academic text.

3. Students will be able to present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業を原則とする。

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. プラハの歴史
3. ボヘミアとドイツ人
4. プラハとユダヤ人
5. プラハのドイツ文学
6. レンカ・ライネロヴァーとプラハ
7. Mandelduft 1
8. Mandelduft 2
9. Mandelduft 3
10. Mandelduft 4
11. Mandelduft 5
12. Mandelduft 6
13. Mandelduft 7
14. Mandelduft 8
15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

9. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the class. Reference books will be introduced at the class.

10. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ文学各論Ⅱ／ German Literature (Special Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野

コード：LB62502, 科目ナンバリング：LHM-LIT307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏としての中欧の文化と歴史 (14)

2. Course Title (授業題目)：Culture and History of Central Europe as a German Cultural Sphere (14)

3. 授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。

講義のほかに、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students knowledge of history and culture of German speaking area, especially outside of today's Germany.

For this purpose we will discuss on multi-cultural Prague, also as a German cultural sphere.

Besides lectures we will read a German text in order to improve the students' ability of German language.

5. 学修の到達目標：1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students will understand history and culture of German speaking area.

2. Students will develop skills to read German academic text.

3. Students will be able to present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業を原則とする。

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. エゴン・エルヴィン・キッシュとプラハ
3. ホロコーストとプラハ
4. Aus Prager Gassen und Nächten 1
5. Aus Prager Gassen und Nächten 2
6. Aus Prager Gassen und Nächten 3
7. Aus Prager Gassen und Nächten 4
8. Aus Prager Gassen und Nächten 5
9. Aus Prager Gassen und Nächten 6
10. Aus Prager Gassen und Nächten 7
11. Aus Prager Gassen und Nächten 8
12. Aus Prager Gassen und Nächten 9
13. Aus Prager Gassen und Nächten 10
14. Aus Prager Gassen und Nächten 11
15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

9. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布。

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the classroom. Reference books will be introduced at the class.

10. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ文学各論Ⅲ／ German Literature (Special Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：藤田 恭子

コード：LB55302, 科目ナンバリング：LHM-LIT308J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ルーマニアのユダヤ系詩人たちによるホロコーストの詩的表象
2. Course Title (授業題目)：Holocaust-Gedichte von Jüdischen Dichter\*innen aus Rumänien
3. 授業の目的と概要： 詩のテキストを厳密に読み、凝縮された言語表現からイメージを膨らませる。その際、詩のテキスト解釈を補強するべく、詩人の他のテキストや二次文献を読む。背景知識としてルーマニアにおけるナチズム受容の歴史を知る。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In diesem Seminar wird durch die genaue Lektüre von Gedichten die Entwicklung von Bildern aus verdichteten sprachlichen Ausdrücken geübt. Dabei werden auch andere Texte der Dichter\*innen sowie Sekundärliteratur eingesetzt, um ihre Gedichte überzeugender zu interpretieren. Als geschichtliche Hintergründe der Gedichte wird über die Geschichte des Nationalsozialismus in Rumänien informiert.
5. 学修の到達目標：ドイツ語による詩を、その言語的時代的文脈を理解しつつ、解釈する方法を知る。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Kennenlernen der Methodologie, Gedichte in deutscher Sprache unter Einbeziehung des sprachlichen und zeitlichen Kontexts zu interpretieren.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業は対面授業として行う。  
事例として、オーストリア帝国領からルーマニア領となったブコヴィナ出身のユダヤ系詩人たちのテキストを取り上げる。彼らの自伝的エッセイや二次文献の一部も読み、そのうえで再度、詩のテキストを読み直す。  
  
第1回 導入  
第2回 ルーマニアにおけるドイツ語話者の歴史  
第3回 ルーマニアにおけるナチズム  
第4回 ホロコーストをテーマとする詩 (1)  
第5回 ホロコーストをテーマとする詩 (2)  
第6回 自伝的エッセイ (1)  
第7回 自伝的エッセイ (2)  
第8回 自伝的エッセイ (3)  
第9回 二次文献 (1)  
第10回 二次文献 (2)  
第11回 二次文献 (3)  
第12回 二次文献 (4)  
第13回 ホロコーストをテーマとする詩 (3)  
第14回 ホロコーストをテーマとする詩 (4)  
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：  
平常点 (出席、授業での発言、課題の発表、議論への参加)
9. 教科書および参考書：  
プリントを配付する。Texte werden im Voraus verteilt.
10. 授業時間外学習：事前に配付したドイツ語テキストを予習し、読解すること。  
Lesen und verstehen der im Voraus verteilten Texte wird vorausgesetzt.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：  
このクラスでは Google Classroom を用いて、授業連絡などを行う。教員の連絡先は以下の通り。kyoko.fujita.e5 アトマーク、トーホク、エーシー、ジェーピー  
Kommunikation außerhalb des Unterrichts (Verteilung von Texten, Einreichung von Hausaufgaben, etc.) findet über Google Classroom statt. Die Kontaktadresse der Lehrkraft lautet kyoko.fujita.e5 (at) tohoku.ac.jp.

科目名：ドイツ文学各論Ⅳ／ German Literature (Special Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：藤田 恭子

コード：LB65301, 科目ナンバリング：LHM-LIT309J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： ドイツの散文作品を読む
2. Course Title (授業題目)：Deutsche Prosa lesen
3. 授業の目的と概要： 散文テキストを読み、また著者の自伝的テキストや二次文献を読んで、多様な解釈の可能性を知る。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In dieser Klasse wird geübt, Prosatexte genau zu. Dabei werden auch autobiografische Texte der Schriftstellerin sowie Sekundärliteratur über sie eingesetzt, um die Texte überzeugender zu interpretieren..
5. 学修の到達目標：ドイツ語による散文を、その言語的時代的文脈を理解しつつ、解釈する方法を知る。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Kennenlernen der Methodologie, Prosatexte in deutscher Sprache unter Einbeziehung des sprachlichen und zeitlichen Kontexts zu interpretieren.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業は対面あるいはオンラインのリアルタイム授業として行う。  
事例として、2009年度ノーベル文学賞を受賞したヘルタ・ミュラー (Herta Müller, 1953-) のテキストを取り上げる。彼女の自伝的エッセイや二次文献の一部も読む。

- 第1回 導入
- 第2回 ヘルタ・ミュラーの小説 (1)
- 第3回 ヘルタ・ミュラーの小説 (2)
- 第4回 ヘルタ・ミュラーの小説 (3)
- 第5回 ヘルタ・ミュラーの小説 (4)
- 第6回 ヘルタ・ミュラーの小説 (5)
- 第7回 ヘルタ・ミュラーの小説 “ (6)
- 第8回 ヘルタ・ミュラーの小説 (7)
- 第9回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (1)
- 第10回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (2)
- 第11回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (3)
- 第12回 二次文献 (1)
- 第13回 二次文献 (2)
- 第14回 二次文献 (3)
- 第15回 まとめ

8. 成績評価方法：  
平常点 (出席、授業での発言、課題の発表、議論への参加)

9. 教科書および参考書：  
プリントを配付する。

Texte werden im Voraus verteilt.

10. 授業時間外学習： 事前に配付したドイツ語テキストを予習し、読解すること。

Lesen und verstehen der im Voraus verteilten Texte wird vorausgesetzt.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

このクラスでは Google Classroom を用いて、授業連絡などを行う。

教員の連絡先は以下の通り。kyoko.fujita.e5 アトマーク、トーホク、エーシー、ジェーピー

Kommunikation außerhalb des Unterrichts (Verteilung von Texten, Einreichung von Hausaufgaben, etc.) findet über Google Classroom statt. Die Kontaktadresse der Lehrkraft lautet kyoko.fujita.e5 (at) tohoku.ac.jp.

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB54301, 科目ナンバリング：LHM-LIT311B, 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語圏映画の世界

2. Course Title (授業題目) : German language films

3. 授業の目的と概要：ドイツ語圏で制作された映画を通して、ドイツ語圏の映画だけではなく、歴史と社会、文化についての理解も深める。さらに、聞き取り能力を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Learn about German language movies and culture, history and society of German language countries through film. Furthermore, improve German language listening skills.

5. 学修の到達目標：ドイツ語圏の映画や社会、歴史、文化について新たな知識と理解を得、同時に B1~B2 レベルのドイツ語スキルを高める。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Gain knowledge on German movies as well as new knowledge and understanding of the culture, society and history of German language countries. Furthermore, improve language proficiency at B1~B2 level of the Common European Framework of Reference for Languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

履修者・参加者の関心にも合わせて以下のテーマから 1 つ 2 つを選び、映画を鑑賞し、その歴史的・文化的背景や映画史について学び調べる。映画の鑑賞と合わせて聞き取りを行う。

- ・ 東ドイツの忘れられた巨匠たち — Frank Beyer, Rainer Simon, Konrad Wolf
- ・ 世紀末にウィーンで発達し、現代ミュージカルの源流となった庶民的小オペラ、「オペレッタ」の軌跡
- ・ 「ドイツの Mike Leigh」こと Andreas Dresen 監督の映画 — 現代社会への問いかけ
- ・ 世界的女流映画監督 Caroline Link の作品
- ・ 東ドイツの終焉 — アカデミー賞を受賞した『善人のためのソナタ』等
- ・ 現代ドイツの生活を主題とした映画たち
- ・ ドイツ語圏 LGBT 映画史 — 世界初と言われるレズビアン映画から出発して
- ・ Fatih Akin 等の映画に見られる現代ドイツ社会における移民問題
- ・ ドイツコメディの名匠たち (Karl Valentin, Heinz Erhardt 等)
- ・ ニュー・ジャーマン・シネマの巨匠たち — Wim Wenders, Werner Herzog, Rainer-Werner Fassbinder
- ・ 映画の中の西ドイツ戦後史

8. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する。なお、課題、宿題としては、(1) 抜粋動画の書き起こし、(2) 映画についての分析や感想、(3) クラスでの発表、の三種類が想定される。

9. 教科書および参考書：

特になし

10. 授業時間外学習：定期的な宿題

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。

もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB64301, 科目ナンバリング：LHM-LIT311B, 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語圏映画と日本

2. Course Title (授業題目) : German language films and Japan

3. 授業の目的と概要：ドイツ語圏で制作された映画を通して、映画だけではなく、ドイツ語圏の歴史と社会、文化についての理解も深める。さらに、聞き取り能力を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Learn about German language movies and culture, history and society of German language countries through film. Furthermore, improve German language listening skills.

5. 学修の到達目標：ドイツ語圏の映画や社会、歴史、文化について新たな知識と理解を得、同時に B1~B2 レベルのドイツ語スキルを高める。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Gain knowledge on German movies as well as new knowledge and understanding of the culture, society and history of German language countries. Furthermore, improve language proficiency at B1~B2 level of the Common European Framework of Reference for Languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

履修者・参加者の関心にも合わせて以下のテーマから 1つ2つを選び、映画を鑑賞し、その歴史的・文化的背景や映画史について学び調べる。映画の鑑賞と合わせて聞き取りを行う。

- ・ 東ドイツの忘れられた巨匠たち — Frank Beyer, Rainer Simon, Konrad Wolf
- ・ 世紀末にウィーンで発達し、現代ミュージカルの源流となった庶民的小オペラ、「オペレッタ」の軌跡
- ・ 「ドイツの Mike Leigh」こと Andreas Dresen 監督の映画 — 現代社会への問いかけ
- ・ 世界的な女流映画監督 Caroline Link の作品
- ・ 東ドイツの終焉 — アカデミー賞を受賞した『善人のためのソナタ』等
- ・ 現代ドイツの生活を主題とした映画たち
- ・ ドイツ語圏 LGBT 映画史 — 世界初と言われるレズビアン映画から出発して
- ・ Fatih Akin 等の映画に見られる現代ドイツ社会における移民問題
- ・ ドイツコメディの名匠たち (Karl Valentin, Heinz Erhardt 等)
- ・ ニュー・ジャーマン・シネマの巨匠たち — Wim Wenders, Werner Herzog, Rainer-Werner Fassbinder
- ・ 映画の中の西ドイツ戦後史
- ・ ドイツ語圏映画で表象される日本

8. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する。なお、課題、宿題としては、(1) 抜粋動画の書き起こし、(2) 映画についての分析や感想、(3) クラスでの発表、の三種類が想定される。

9. 教科書および参考書：

特になし

10. 授業時間外学習：定期的な宿題

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。

もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：森本 浩一

コード：LB55402, 科目ナンバリング：LHM-LIT311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カフカを読む

2. Course Title (授業題目)：Reading Kafka

3. 授業の目的と概要：フランツ・カフカの小説作品を対象として、ドイツ文学作品を原文で読解・解釈する訓練を行う。映画化された作品も鑑賞する。あわせて、小説の歴史、文学理論、物語論的アプローチの仕方など関連するトピックについて講義し、批評文を書く練習も行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students improve the ability to read and interpret the literary text written in German, by the practice of close reading of Franz Kafka's fiction. We'll also watch some filmed works related to texts. At the same time, some lectures, which are useful for literary research, will be given. For example about: the history of the novel, literary theories, the method of narrative approaches, etc. And students will also practice writing critical essays.

5. 学修の到達目標：ドイツ文学作品の読解力が向上する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will improve the ability to read and interpret the literary text written in German.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. テキスト講読(1)
3. テキスト講読(2)
4. テキスト講読(3)
5. テキスト講読(4)
6. テキスト講読(5)
7. テキスト講読(6)
8. テキスト講読(7)
9. テキスト講読(8)
10. テキスト講読(9)
11. テキスト講読(10)
12. テキスト講読(11)
13. テキスト講読(12)
14. テキスト講読(13)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

成績評価の方法：おおむね、予習と授業への参加（70％）とレポート（30％）。

9. 教科書および参考書：

テキストは教師が準備する。

10. 授業時間外学習：毎回、事前に訳読の準備をして出席すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。xkc-m2rt@tohoku.ac.jp  
(◎を@に変更)

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：森本 浩一

コード：LB65402, 科目ナンバリング：LHM-LIT311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カフカを読む

2. Course Title (授業題目)：Reading Kafka

3. 授業の目的と概要：フランツ・カフカの小説作品を対象として、ドイツ文学作品を原文で読解・解釈する訓練を行う。映画化された作品も鑑賞する。あわせて、小説の歴史、文学理論、物語論的アプローチの仕方など関連するトピックについて講義し、批評文を書く練習も行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students improve the ability to read and interpret the literary text written in German, by the practice of close reading of Franz Kafka's fiction. We'll also watch some filmed works related to texts. At the same time, some lectures, which are useful for literary research, will be given. For example about: the history of the novel, literary theories, the method of narrative approaches, etc. And students will also practice writing critical essays.

5. 学修の到達目標：ドイツ文学作品の読解力が向上する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will improve the ability to read and interpret the literary text written in German.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. テキスト講読(1)
3. テキスト講読(2)
4. テキスト講読(3)
5. テキスト講読(4)
6. テキスト講読(5)
7. テキスト講読(6)
8. テキスト講読(7)
9. テキスト講読(8)
10. テキスト講読(9)
11. テキスト講読(10)
12. テキスト講読(11)
13. テキスト講読(12)
14. テキスト講読(13)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

おおむね、予習と授業への参加(70%)とレポート(30%)。

9. 教科書および参考書：

テキストは教師が準備する。

10. 授業時間外学習：毎回、事前に訳読の準備をして出席すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。xkc-m2rt@tohoku.ac.jp  
(◎を@に変更)

科目名：ドイツ語学概論 I / German Linguistics (General Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB31202, 科目ナンバリング：LHM-LIT206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中級ドイツ文法
2. Course Title (授業題目)：Intermediate German Grammar
3. 授業の目的と概要：初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Der Unterricht orientiert sich daran, verschiedene Themen, die in der grundlegenden Grammatik normalerweise nicht berücksichtigt werden, in Betracht zu ziehen und die deutsche Grammatik besser kennenzulernen.
5. 学修の到達目標：ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, die deutsche Grammatik besser zu verstehen und deutsche Sätze besser lesen und schreiben zu können.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1 ガイダンス
  - 2 定冠詞 (1)
  - 3 定冠詞 (2)
  - 4 不定冠詞 (1)
  - 5 不定冠詞 (2)
  - 6 無冠詞
  - 7 形容詞・副詞の比較表現 (1)
  - 8 形容詞・副詞の比較表現 (2)
  - 9 分詞 (1)
  - 10 分詞 (2)
  - 11 分詞 (3)
  - 12 否定 (1)
  - 13 否定 (2)
  - 14 接続詞 (1)
  - 15 接続詞 (2)
8. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。  
参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』(三省堂)
10. 授業時間外学習：復習が重要である。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：ドイツ文学概論 I / German Literature (General Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB35302, 科目ナンバリング：LHM-LIT204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ文学史
2. Course Title (授業題目)：History of German Literature
3. 授業の目的と概要：9 世紀から現代までのドイツ文学の歴史を概観する。ドイツ文学の主要な作品を紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In dieser Vorlesung handelt es sich um die Geschichte der deutschen Literatur vom 9. Jahrhundert bis zur Moderne. Dabei werden wichtige Werke der deutschen Literatur vorgestellt.
5. 学修の到達目標：ドイツ文学の歴史の概要を知る。ドイツ文学の主要な作品の内容を知る。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Ziel der Vorlesung ist, die grundlegende Geschichte der deutschen Literatur und die Inhalte der wichtigen Werke kennen zu lernen.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1 ガイダンス
  - 2 古高ドイツ語期の文学 (1)
  - 3 古高ドイツ語期の文学 (2)
  - 4 中世文学 (1)
  - 5 中世文学 (2)
  - 6 中世文学 (3)
  - 7 中世文学 (4)
  - 8 初期新高ドイツ語期の文学 (1)
  - 9 初期新高ドイツ語期の文学 (2)
  - 10 初期新高ドイツ語期の文学 (3)
  - 11 バロック期の文学
  - 12 啓蒙主義
  - 13 ゲーテ時代 (1)
  - 14 ゲーテ時代 (2)
  - 15 ゲーテ時代 (3)
8. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

参考書：手塚富雄・神品芳夫「増補ドイツ文学案内」(岩波文庫)、柴田翔編著「はじめて学ぶドイツ文学史」(ミネルヴァ書房)、  
畠山寛他編「ドイツ文学の道しるべ」(ミネルヴァ書房)
10. 授業時間外学習：最も大事なことは自分で実際に作品を読むことです。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：ドイツ文学演習Ⅲ／ German Literature (Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：菊池 克己

コード：LB52404, 科目ナンバリング：LHM-LIT326J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：多読によるドイツ語能力の獲得

2. Course Title (授業題目) : German acquisition based on extensive reading

3. 授業の目的と概要：外国語を読む＝日本語に訳すこと、と思う人は多い。そうしないでどうやって理解するのか、と。だが、ドイツ語をドイツ語のままわかるようにならないと、「本」を読めるようにはならない。学校の授業のように週数ページ程度読むようなものを「読書」とは言わない（また、訳そうとしては、ネイティブの話すドイツ語のスピードについていけない）。

そこで必要なのは、もちろん「訳読」ではない。

したがって、「多読」に挑戦する。目的は「訳せる」ようになることではなく、ドイツ語のまま理解できるようになることなので、自分のレ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides students with books to read by means of extensive reading. Students choose books for themselves and read at their own pace. The aim is to help students to gain proper reading experience which is likely to be spoiled in the text understanding through analyzing grammatically and translating into Japanese.

5. 学修の到達目標：・訳読ではない、ドイツ語で「読書」する楽しさを知る。

・ドイツ語での読書を習慣化する。

・読みの流暢さを獲得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The goals of this course are to

- enjoy reading in German without translating into Japanese

- acquire the habit of reading in German

- improve reading fluency

7. 授業の内容・方法と進度予定：

自分の能力にあった本を自分で選び、自分のペースで読む。その感想などを簡単に記録する。また、自分が読んだ本を紹介し、情報交換する。

1 オリエンテーション：多読とは何か？

2 多読実践 1

3 多読実践 2

4 多読実践 3

5 多読実践 4

6 多読実践 5

7 多読実践 6

8 ここまでの感想、自分の多読を発展・深化させるために目標を立てる

9 多読実践 7

10 多読実践 8

11 多読実践 9

12 多読実践 10

13 多読実践 11

14 多読実践 12

15 読書経験を振り返って

8. 成績評価方法：

平常点 [100%]

9. 教科書および参考書：

教室で指示

10. 授業時間外学習：隙間時間を利用するなど、自分で本を選んで多読に取り組む。訳読ではなくドイツ語での「読書」を習慣化する努力を。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：ドイツ文学演習Ⅳ／ German Literature (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中(5) 単位数：2

担当教員：川村 和宏

コード：LB98814, 科目ナンバリング：LHM-LIT327J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代ドイツ児童文学に描かれた錬金術と貨幣論
2. Course Title (授業題目)：Alchemy and Theory of Money in contemporary German children's literature
3. 授業の目的と概要：ドイツ文学においては、いわゆる錬金術思想の要素が繰り返し物語の要素として活用されてきた。この授業では、ゲーテが『ファウスト』に描いた錬金術思想が、二つの経路を通じて、現代の児童文学作家であるミヒャエル・エンデに継承されていることを追いたい。エンデが描いた貨幣観が、現代においてどのような意味を持ちうるのかについて考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In German literature, elements of so-called alchemical thought have been repeatedly utilized as elements of narrative. In this class, we would like to follow how Goethe's alchemical ideas depicted in "Faust" have been inherited by Michael Ende, a contemporary children's literature writer, through two paths. We will discuss what Ende's view of money could mean in today's world.
5. 学修の到達目標：ゲーテの『ファウスト』やエンデの作品に描かれた貨幣論について理解できるようにする。ドイツ文学と錬金術思想、貨幣論の間の学際的な研究方法について理解することができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To be able to understand theory of money as depicted in Goethe's Faust and Ende's works. To be able to understand the interdisciplinary research methods between German literature, alchemical thought and theory of money.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. ゲーテの『メルヒェン』について
  2. 『ファウスト』と錬金術思想について
  3. ルードルフ・シュタイナーの思想について
  4. シュタイナーとゲーテ
  5. エンデとシュタイナー
  6. 「ゲーテを読むシュタイナー」を読むエンデ
  7. 『はてしない物語』の構造について
  8. 『鏡の中の鏡』の構造について
  9. エンデの貨幣観とジルヴィオ・ゲゼル
  10. ジルヴィオ・ゲゼルの貨幣観と地域通貨の関連について
  11. 『鼠捕り男』のモチーフについて
  12. エンデの書簡と『鼠捕り男』
  13. ハンス・クリストフ・ビンズヴァンガーと現代の貨幣制度について
  14. ゲーテからエンデへ至る錬金術思想の系譜
  15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業時の平常点 40%と期末レポート 60%によって評価を行う。平常点は、授業において扱うテキストを正確に理解できているかどうかを評価する。期末レポートでは、課題に従って、説得力のある論理的な議論が展開できているかどうかを評価する。
9. 教科書および参考書：

教科書：プリントを配布する。参考書：川村和宏『ミヒャエル・エンデの貨幣観』
10. 授業時間外学習：授業ではテキストの講読も行うので、講義に先立って配布するテキストをあらかじめ読んでおくこと。また講義終了後提出する期末レポートについてテーマを選定し、そのための事前調査・資料収集を行っておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：ドイツ語学演習Ⅲ／ German Linguistics (Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

semester：5 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB53308, 科目ナンバリング：LHM-LIT328J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語学演習

2. Course Title (授業題目)：German Language Seminar

3. 授業の目的と概要：2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。  
読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Stabilize and improve on the German language proficiency acquired during the first two years of university education.

Systematically develop skills in reading, writing, listening and speaking.

5. 学修の到達目標：B1～B2 レベルのドイツ語を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Achieve German language proficiency at B1～B2 level of the Common European Framework of Reference for Languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

下記は授業内容の一例です。

1. Reisetyp I
2. Reisetyp II
3. Einmal um die ganze Welt I
4. Einmal um die ganze Welt II
5. Einmal um die ganze Welt III
6. Urlaub mal anders I
7. Urlaub mal anders II
8. Arger an den schönsten Tagen I
9. Arger an den schönsten Tagen II
10. Arger an den schönsten Tagen III
11. Eine Reise nach Hamburg I
12. Eine Reise nach Hamburg II
13. Eine Reise nach Hamburg III
14. Alexander von Humboldt I
15. Alexander von Humboldt II

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。クラスコードはシラバス入力時点では未定で学期初めに決まります。そのときClassroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

8. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する

9. 教科書および参考書：

Aspekte neu B1, Teil 2

10. 授業時間外学習：定期的な宿題を出す

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。

もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：ドイツ語学演習Ⅳ／ German Linguistics (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB63309, 科目ナンバリング：LHM-LIT329J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語学演習

2. Course Title (授業題目)：German Language Seminar

3. 授業の目的と概要：2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。  
読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Stabilize and improve on the German language proficiency acquired during the first two years of university education.

Systematically develop skills in reading, writing, listening and speaking.

5. 学修の到達目標：B1～B2 レベルのドイツ語を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Achieve German language proficiency at B1～B2 level of the Common European Framework of Reference for Languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

下記は、授業内容の一例です

1. Natürlich Natur I
2. Natürlich Natur II
3. Umweltproblem Single I
4. Umweltproblem Single II
5. Umweltproblem Single III
6. Tierisch tierlieb I
7. Tierisch tierlieb II
8. Alles für die Umwelt I
9. Alles für die Umwelt II
10. Alles für die Umwelt III
11. Kostbares Nass I
12. Kostbares Nass II
13. Kostbares Nass III
14. Elisabeth Mann Borgese I
15. Elisabeth Mann Borgese II

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。クラスコードはシラバス入力時点では未定で学期初めに決まります。そのときClassroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

8. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する

9. 教科書および参考書：

Aspekte neu B1, Teil 2

10. 授業時間外学習：定期的な宿題を出す

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。

もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：ドイツ語学概論Ⅱ／ German Linguistics (General Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB41201, 科目ナンバリング：LHM-LIT207J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中級ドイツ文法
2. Course Title (授業題目)：Intermediate German Grammar
3. 授業の目的と概要：初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Der Unterricht orientiert sich daran, verschiedene Themen, die in der grundlegenden Grammatik normalerweise nicht berücksichtigt werden, in Betracht zu ziehen und die deutsche Grammatik besser kennenzulernen.
5. 学修の到達目標：ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, die deutsche Grammatik besser zu verstehen und deutsche Sätze besser lesen und schreiben zu können.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1 ガイダンス
  - 2 現在形 (1)
  - 3 現在形 (2)
  - 4 過去形 (1)
  - 5 過去形 (2)
  - 6 現在完了形 (1)
  - 7 現在完了形 (2)
  - 8 過去完了形
  - 9 未来形 (1)
  - 10 未来形 (2)
  - 11 接続法 (1)
  - 12 接続法 (2)
  - 13 接続法 (3)
  - 14 話法の助動詞 (1)
  - 15 話法の助動詞 (2)
8. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。  
参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』(三省堂)
10. 授業時間外学習：復習が重要である。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：ドイツ文学概論Ⅱ／ German Literature (General Lecture)II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB45302, 科目ナンバリング：LHM-LIT205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ文学史
2. Course Title (授業題目)：History of German Literature
3. 授業の目的と概要：9世紀から現代までのドイツ文学の歴史を概観する。ドイツ文学の主要な作品を紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In dieser Vorlesung handelt es sich um die Geschichte der deutschen Literatur vom 9. Jahrhundert bis zur Moderne. Dabei werden wichtige Werke der deutschen Literatur vorgestellt.
5. 学修の到達目標：ドイツ文学の歴史の概要を知る。ドイツ文学の主要な作品の内容を知る。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Ziel der Vorlesung ist, die grundlegende Geschichte der deutschen Literatur und die Inhalte der wichtigen Werke kennen zu lernen.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1 ガイダンス
  - 2 ロマン主義 (1)
  - 3 ロマン主義 (2)
  - 4 ロマン主義 (3)
  - 5 三月前期 (1)
  - 6 三月前期 (2)
  - 7 19世紀後半の文学 (1)
  - 8 19世紀後半の文学 (2)
  - 9 19世紀後半の文学 (3)
  - 10 20世紀前半の文学 (1)
  - 11 20世紀前半の文学 (2)
  - 12 20世紀前半の文学 (3)
  - 13 戦後の文学 (1)
  - 14 戦後の文学 (2)
  - 15 児童文学
8. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

参考書：手塚富雄・神品芳夫「増補ドイツ文学案内」(岩波文庫)、柴田翔編著「はじめて学ぶドイツ文学史」(ミネルヴァ書房)、  
畠山寛他編「ドイツ文学の道しるべ」(ミネルヴァ書房)
10. 授業時間外学習：最も大事なことは自分で実際に作品を読むことです。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：ドイツ文学演習 I / German Literature (Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB51403, 科目ナンバリング：LHM-LIT324J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ドイツ文学
2. Course Title (授業題目) : Medieval German literature
3. 授業の目的と概要：現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。  
現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In diesem Seminar handelt es sich um die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur als Quelle der modernen Literatur und um ihre Eigenschaften.  
In der modernen Literatur ist nicht selten die Liebe das Thema, aber die Liebe wurde erst im 12. Jahrhundert thematisiert, das Thema davor war am meisten das Christentum. Die literarische Liebe basierte sich aber auch auf dem Glauben an den Gott, die Liebe zwischen Menschen war also erhaben. Solche hohe Liebe wurde aber allmählich säkularisiert, indem die ritterliche Kultur verfiel und die bürgerliche Gesellschaft sich erhebe. In dem Seminar soll also auch berücksichtigt werden, dass die Teilnehmer sich mit der Kultur und Gesellschaft im Mittelalter vertraut machen und gelegentlich auch bessere Kenntnisse über den Zusammenhang mit der nordischen Legenden erwerben können.
5. 学修の到達目標：中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Ziel des Unterrichts ist, dass man die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur und deren Eigenschaften kennen lernt und Texte im Mittelhochdeutsch lesen und den Inhalt verstehen kann.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1 ガイダンス
  - 2 中高ドイツ語入門 1 (発音)
  - 3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)
  - 4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)
  - 5 中高ドイツ語文学講読 1 (1655-1656)
  - 6 中高ドイツ語文学講読 2 (1657-1658)
  - 7 中高ドイツ語文学講読 3 (1659-1661)
  - 8 中高ドイツ語文学講読 4 (1662-1664)
  - 9 中高ドイツ語文学講読 5 (1665-1667)
  - 10 中高ドイツ語文学講読 6 (1668-1670)
  - 11 中高ドイツ語文学講読 7 (1661-1664)
  - 12 中高ドイツ語文学講読 8 (1665-1668)
  - 13 中高ドイツ語文学講読 9 (1669-1672)
  - 14 中高ドイツ語文学講読 10 (1673-1676)
  - 15 中高ドイツ語文学講読 11 (1677-1680)
8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』
10. 授業時間外学習：前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：ドイツ文学演習Ⅱ／ German Literature (Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB61403, 科目ナンバリング：LHM-LIT325J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ドイツ文学
2. Course Title (授業題目)：Medieval German literature
3. 授業の目的と概要：現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。  
現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In diesem Seminar handelt es sich um die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur als Quelle der modernen Literatur und um ihre Eigenschaften.  
In der modernen Literatur ist nicht selten die Liebe das Thema, aber die Liebe wurde erst im 12. Jahrhundert thematisiert, das Thema davor war am meisten das Christentum. Die literarische Liebe basierte sich aber auch auf dem Glauben an den Gott, die Liebe zwischen Menschen war also erhaben. Solche hohe Liebe wurde aber allmählich säkularisiert, indem die ritterliche Kultur verfiel und die bürgerliche Gesellschaft sich erhebe. In dem Seminar soll also auch berücksichtigt werden, dass die Teilnehmer sich mit der Kultur und Gesellschaft im Mittelalter vertraut machen und gelegentlich auch bessere Kenntnisse über den Zusammenhang mit der nordischen Legenden erwerben können.
5. 学修の到達目標：中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, dass man die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur und deren Eigenschaften kennen lernt und Texte im Mittelhochdeutsch lesen und den Inhalt verstehen kann.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1 ガイダンス
  - 2 中高ドイツ語入門 1 (発音)
  - 3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)
  - 4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)
  - 5 中高ドイツ語文学講読 1 (1681-1682)
  - 6 中高ドイツ語文学講読 2 (1683-1684)
  - 7 中高ドイツ語文学講読 3 (1685-1687)
  - 8 中高ドイツ語文学講読 4 (1688-1690)
  - 9 中高ドイツ語文学講読 5 (1691-1693)
  - 10 中高ドイツ語文学講読 6 (1694-1696)
  - 11 中高ドイツ語文学講読 7 (1697-1700)
  - 12 中高ドイツ語文学講読 8 (1701-1704)
  - 13 中高ドイツ語文学講読 9 (1705-1708)
  - 14 中高ドイツ語文学講読 10 (1709-1712)
  - 15 中高ドイツ語文学講読 11 (1713-1716)
8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』
10. 授業時間外学習：前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：